

トピックス
1. 播州日誌
2. 南国土佐を後にして 第23回



福留経営労務管理事務所  
姫路龍馬会  
社会保険労務士・行政書士  
福留章

# 龍馬通信

No. 79

2024年7月号

## 小暑～大暑の候

## 猛暑に思う

半月ほども遅れた  
近畿地方の入梅  
男性型の梅雨  
集中的なゲリラ豪雨  
線状降水帯が発生  
一地方を 連続的に激しい雨が襲う  
今年の夏は気まぐれにやってきた

乱開発による緑の喪失  
大規模な砂漠化  
北極の氷山の崩壊  
世界的な海上水面の上昇  
数え上げたらきりがなほどの不安要素  
動物たち、いや人類の運命も  
地殻変動に左右される

気温25度で夏日  
気温30度で真夏日  
気温35度を超えると猛暑日という  
暑い夏の到来に  
地球温暖化  
際限のない環境破壊を  
思う人も多い

我々人類は、「考えること」知能を与えられた  
叡智を結集して  
地球にやさしい地球を守る方策を持たねばなら  
ない  
それが人類に与えられた責務であるともいえ  
る  
にもかかわらず  
欲望のままに自然環境を破壊し続けている  
開発という名のもとに  
最終兵器である核ミサイルは精度を高め  
「核抑止力」という幻のような夢に酔っている

「平年並み」過去十年の平均をいう  
地球規模で考えれば異常気象でも  
何でもないかもしれない  
しかし、それにしても  
ここ数年は異常としか言いようがない

人類は生物と共生しなければ生存できない  
絶滅危惧種は増え続け  
それを救う術さえも失っている  
人類への警鐘を無視することは自殺行為だ

気象予報の精度は  
気象衛星の活用や  
各国の連携により飛躍的に進化した  
刻々と変化する  
雲の流れや、風の強さ方向は  
鳥瞰図的に見ることが出来る

人間同士が殺し合いをしている現状から  
戦争のない、平和な時代など  
儚い「夢物語」なの  
かもしれない

大自然の変化を  
いち早く本能で知るのは  
野生動物たちであるという





# 播州日誌

## 鱧 (はも)

夏の魚の代表格と言えば鱧 (はも)。魚偏に豊と書いて鱧とはよく言ったもので、この魚の料理の幅は広く、その味覚にも奥深いものがある。高級魚鱧は、ウナギ目ハモ科に属する。

ウナギの間ではあるがウナギよりはかなり大型。凶暴な一面がありその鋭い歯で獲物を噛み砕く。名前の由来は人を食 (は) むからきている。日本では本州紀伊半島以西に多く生存する暖海性の魚。季節は夏、6~7月頃。梅雨明け頃が旬と言われ、産卵期に入って脂がのっている。その凶暴さや外見からは想像がつかない程きれいな白身。淡白な旨味の中に濃厚な味わいが感じられる。一番漁獲量が多いのは兵庫県で、特に淡路島の沼島近辺で獲れる鱧は絶品と言われている。個人的には清く澄んだ目が魅力的だと思っている。

JR 曾根駅の近くに「寿司よし」という老舗のすし屋がある。6月のある日、飲み友達のX氏と二人で鱧のフルコースを食べることになった。ちなみに酒は気心のあった紳士と飲むのを最上とする。ダンディな彼との待ちに待った食事会であった。小あがりの座敷でテーブルをはさむ。まずはビールで乾いたのどを潤す。「通し」に出て来たのが「ハモの玉子と肝の卵とじ」いきなり大将渾身の一品が出て、二人顔を見合わせてニッコリ。珍味である。卵も肝も食べたことがない、初体験である。ほんのりと甘い卵とじはするするのどを通過していく。かなりうまいのである。2杯目からは冷酒にする。ダンディな人と飲むのは適当に冷えた日本酒に限る。次に「ハモ刺し」「ハモの湯引き」ここでも初体験「ハモ刺し」。さっきまで水槽で泳いでいたやつでないところはいかない。冷酒をぐびぐびやりながら、まずは刺身を食べる。適当な弾力があってこれまた珍味中の珍味。適当に乗った脂が美味い。定番の「ハモの湯引きは」もちろん梅肉で食べる。梅の酸味と白身魚のハーモニー。不味かろうはずがない。冷酒が進む。次に「焼きハモ」と「ハモ天」。職人技の骨切りが上手くないところうまく仕上がらない。ハモ天などサクサクの衣と白身のコラボで文句なし。大将の職人技が光る。次に「ハモの箱寿司」。ハモの身をほぐして味付けしたもので作ったハモの箱寿司。優しくてほのかにハモの香り。醤油ベースのたれが絶妙でこれも美味。



最後に「ハモ鍋」。玉ねぎや旬の野菜をたっぷりを入れて、ハモはしゃぶしゃぶ程度に。雪のようなハモの身がはじけて「半夏生の花」のよう。玉ねぎのスープに味付けられいくらでも腹に収まる。×はソーメン。あらかじめ茹でたのを一つかみ、しゃぶしゃぶとして、即口に入れる。味が沁みてこれ以上の旨味がないほどの出来具合。×には最高である。いつの間にか二合瓶が3本ほど。

かくして酒と肴と会話が紡ぐ、「至福の時間」は夢のように過ぎていったのである。

2024. 6. 29



## 傷病手当金の継続給付

事務所の最上階は屋上になっている。たまには気晴らしに屋上に出ることもある。姫路 BP と新幹線の高架に挟まれているが、防音壁のおかげでそれ程の騒音でもない。新幹線はいつ見てもカッコイイ。流線型の車体、流れるような走行。上下線の列車が交差する景色は何度見ても飽きない。まさに文明の利器の最たるものだ。ぼんやりと景色を眺め風に吹かれていた時、携帯が鳴った。製造業の事業主から「傷病手当金」「カスハラ」の2件の相談。急ぎだということで電話応答することになった。



「傷病手当金」の継続給付の件で退職後の給付の要件を説明した。①資格喪失日までに引き続き1年以上被保険者であること。②その資格を喪失した時に傷病手当金を受けているか受ける状態にあること。この場合資格喪失前に連続3日間の労務不能であるという待機期間を経ている必要がある。注意事項として退職日が労務不能であることが必要で入社しないほうがいいということ。受給開始日から1年6か月間受給できる。と説明する。

2件目は最近増えているクレマーなどからの暴言や脅迫などいわゆるカスハラについての相談。電話対応中に女子事務員がお客さんから「激しい言葉でののしられ、会社に火をつけてやる」とまで言われそれも連日の事ですっかりトラウマになり電話に出られなくなっているとのこと。経験から、電話に「自動録音装置」をつける事。着信すると音声の流れこの電話の内容が録音されることをアナウンスする装置。かなり普及していて効果的であること。それから連日ということから悪質として、警察に被害を届け出て、相談記録を残してもらうことを勧めた。継続的な被害発生を示す客観的な証拠になるため、被害が深刻化した場合、警察が速やかに対応してくれる利点がある事を付け加えた。野口はふっとため息をついた。事業主からの相談内容も随分変わってきたもんだと思った。



## STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

### STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省と労働災害防止団体では、転倒災害を撲滅するため「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。STOP! 転倒 啓発

事業者の皆さまは、職場の転倒災害防止対策を進めいただくとともに、適時にチェックリストを活用した総点検を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、職場環境の改善を図ってください。

#### 転倒災害の特徴

特徴1 転倒災害は最も多い労働災害!

休業4日以上労働災害、約12万件のうち、転倒災害は約2.8万件と最も多く発生しており、近年増加傾向です。

特徴2 特に高齢者で多く発生!

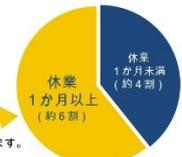
高齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では55歳未満と比較してリスクが約3倍に増加します。

特徴3 休業1か月以上が約6割!

転倒災害による休業期間は約6割が1か月以上となっています。

特徴4 冬季に多く発生!

降雪の多い地域では、冬季に多く発生しています。



「平成29年転倒災害による休業期間の割合」(労働基準監督署調べ)

#### 転倒災害の主な原因

転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも似たような危険はありませんか?

滑り	つまづき	踏み外し
<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床が滑りやすい素材である。</li> <li>床に水や油が飛散している。</li> <li>ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。</li> <li>路面雪が凍結している。</li> </ul>	<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床の凹凸や段差がある。</li> <li>床に荷物や商品などが放置されている。</li> </ul>	<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。</li> </ul>

#### 転倒災害防止対策のポイント

転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。

4 S (整理・整頓・清掃・清拭)	転倒しにくい作業方法	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行場所に物を放置しない</li> <li>床面の汚れ(水、油、粉など)を取り除く</li> <li>床面の凹凸、段差などの解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間之余裕を持って行動</li> <li>滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行</li> <li>足元が見えにくい状態で作業しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動や作業に適した靴の着用</li> <li>職場の危険マップの作成による危険情報の共有</li> <li>転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起</li> </ul>

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください!  
「STOP! 転倒災害プロジェクト」

STOP! 転倒 啓発

(2018.11)

## ～南国土佐を後にして～

### 第23回 「東京編」 都落ち

夢が破れて粉々になった気分。いくらか自棄気味に入社した会社であったが、元々営業の仕事が合っていたのだろうか。関八州（埼玉 東京 神奈川 群馬 栃木 千葉 茨木）を1トントラックに佃煮など食品を積み込んで、各県の市場をめぐり食品を販売する仕事が嫌ではなかった。商慣習を飲み込むまでは少し時間がかかったが何とか身についた。2泊3日とかの出張。一筋縄ではいかない店主を相手に商談をまとめる。あらかじめの注文もあるので一箱でも上乘せして販売するのである。要するに商品を売り込むこと、返品を断ることが大事な仕事だった。10箱買ってくれたら、値引きではなく1箱無料で提供するなどいくつかのテクニックがあった。返品（赤伝票）を切らないのが鉄則だが、これを買うから裏においてある返品を取ってくれと言われる。最後まで断ることはなかなかできない。カビの発生や腐りかけの商品は持ち帰ると担当者がいて、分別し処分する。もう時効だから書く事にするがそこそこのものは、炊きなおし再度商品化する。ちなみに食事の時私は今でも佃煮の類には手を出さない。22歳の時形だけの結婚式を挙げ会社の人たちに集まってもらって自宅で小宴を開いた。何とも簡素なものであったが、それ程のこだわりもなく両親からの反対もなかった。成り行き任せのようだったが、本人はそれで納得していた。小さなアパートだったけど時々訪ねてきてくれる兄弟たち（兄夫婦、弟夫婦、姉夫婦が上京して暮らしていた）のおかげで楽しい時間を過ごせた。親に力がないと兄弟が離散して暮らすことになる。いろんな事情で親元を離れる。悲しい現実が我が家の状況でもあった。初任給は5万円程度。毎年昇給はあったがわずかなものであった。みんな貧しかったが、皆やる気で生きていて迫力のある時代だった。

就職後3年目の10月事件は起きた。農協からの借り入れ金のことが新聞報道で露見。当時は法律違反であり検挙送検され結局会社は倒産、生まれて初めて失業という破目に。差し押さえ前に得意先を回って債権を回収する。小切手には裏判をもらって即換金する。生まれて初めての経験。「大変やな」「これからも頑張るな」と慰められ励まされることが多かった。そうして営業が集めて廻った数百万円で社員に最後の給与を払った。今は良き思い出となっているが、当時は必死で上司の指示に従って動いたことを覚えている。



倒産後会社は管財人の監理のもとに置かれたが、何が有るかもしれない状態で営業が出社して留守番のような事をしていた。ある日洗車していると債権者らしい人が来て「誰の水道で洗車しとんじゃ」と怒鳴られた。ぶつぶつ文句を言いながら、ゴミ箱までもっていった人もいた。小型のフォークリフトを軽トラに積んで持ち帰る人もいた。何を言われても、何をされても文句言えない口惜しさを知った。倒産という現実。60人からの社員が路頭に迷うことになり公共職業安定所の集団就職相談も開かれた。

偶然と言えはいいのか、そんな状況の時に父から悲痛な手紙が届いた。当時父はクリーニングの取次の仕事の傍ら、兵庫県に本社のあるリネンサプライ会社の一つの事業部であるダストコントロール（リースキン＝乾式雑巾、モップ）の事業の高知営業所を任されていた。主にレンタルの仕事。ところが両足に通風が出て車の運転が出来ず、会社に迷惑をかけている。兄弟のうち一人でもいいから高知に帰ってきて欲しいというものであった。兄弟の中で一番身軽だった私は、こんな時こそ親孝行をと考え高知に帰ることにした。

「南国土佐を後にして」およそ7年目。「都落ち」という言葉が頭をよぎったが新しい人生を切り開くためにも、高知に帰って出直そうと決めた。在職中から仲良くしてもらっていた運転手さんの厚意もあって彼の車に家財道具を積み、東名、名神を経て瀬戸大橋を渡り高知を目指した。降りしきる雨の中私は一睡もせず前方を見つめていた。ワイパーの向こうで在京中の思い出が走馬灯のように回っていた。負けたらいかん、負けたらいかん、この状況を乗り越えなければならぬと涙をのんだ。運転席の真ん中に妻がいた。そのお腹の中には長男「康博」が宿っていた。この息子の為にも頑張らなければならぬと強く思った。